

# 千葉さきえの

ネットの議員は市民と議会・行政をつなぐパイプ役、市民が主役の政治を

## 活動報告



発行：江東・生活者ネットワーク 発行責任者：千葉早希恵 〒136-0072 東京都江東区大島4-7-3ボーニ大島1F tel.3636-9044 fax.3636-9046

### 千葉さきえの フットワーク

#### 6/14 区長と面談 シャボン玉首長 メッセージ活動

7月のシャボン玉月間に向け全国の首長からせっけん使用をすすめるメッセージをもらう活動に参加しました。今年も食と環境問題に取り組んでいる江東地域協議会のメンバーとともに山崎区長と面談し、メッセージをいただきました。



#### シャボン玉月間に寄せて

江東区長・特別区長会会長 山崎 孝明

江東区は、令和3年7月に「ゼロカーボンシティ江東区」を表明いたしました。未来を担う子どもたちによりよい環境を残すため、環境先進都市としてすべての区民や事業者と一丸となって、温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする取り組みを進めます。2050年ゼロカーボン、脱炭素社会の実現を目指すうえで、せっけんの使用は水環境を守り育てるための、誰でもできる身近な行動のひとつであると考えます。まさに貴会の今年の合言葉「せっけんからはじめよう。地球を守る小さな一歩。」に通じるものと思います。貴会の長年にわたるせっけん運動に敬意を表しますとともに、この運動の輪がより一層広がり、実り多きものとなりますことを、心よりご祈念申し上げます。

#### 5/25 「新生児家庭」を支える地域のしくみ ～母子保健と子育て支援が つながるまちづくりに向けて～

お話し：原美紀さん（認定NPO法人びーのびーの事務局長）

横浜市港北区で、地域とのつながりによる「みんなで子育て」の実現を目指す「びーのびー」の子育て支援について伺いました。港北区と協働で行ったアンケートでは、7割以上の親が市外出身の「アウェイ育児」で近所に頼れる人がいません。パートナーが協力的でも限界があり、長期化するコロナ下においてさらに子育てが孤立し不安が強くなるなど、子どもを持ちたいと思える状況ではありません。困った時に助けを求められるよう、妊娠期から地域や行政とつなぐソーシャルワーク機能が必要です。

区議会報告

2022年 第2回 定例会

6/8～ 6/30

令和4年度予算審査特別委員会

HPVワクチン接種勧奨再開  
接種後の体制について

令和4年度予算審査特別委員会  
HPVワクチン接種勧奨再開  
接種後の体制について

深刻な副反応が出るとして積極的勧奨が中止されていたHPV（子宮頸がん）予防ワクチン接種を、厚労省は今年4月、勧奨再開することを決定した。江東区では今定例会で、対象年齢約6千人の他、勧奨を中止していた期間に接種を逃した17歳から25歳までの約2万人の女性に対し個別に接種券を配布し接種を促す補正予算が組まれた。

文教委委員会 陳情審査

区立幼稚園の廃止計画に関する陳情

区は2026年までに区立幼稚園を7園廃止する方針を出している。これまでに、配慮を必要とする子どもに対して、私立園では入園を断られてしまう実態があり、区立園

子どもたちの未来を守る、給食への有機食材導入に関する陳情

学校給食で、農薬を使用しない食材を取り入れることは健康面や環境への配慮として意義があり、陳情の趣旨に賛同し導入を求めたところ、区は価格や量の確保に課題があるとして導入する考えはないが、食材調達基準として、食品表示の明確なものを選択していると答弁があった。

が受け皿となつていく。支援員を配置し臨床心理士の巡回を行っている区立園が廃止されると、私立園での受け入れ体制の整備が必要となる。そこで今年4月から人員配置のための補助金が支給されることになった。8園からの申請があり児童発達支援の需要は高い。誰もが安心して入園できるように十分な支援体制を求めていくことが必要だ。

武蔵野市では食材調達の方針として、有機農産物の使用や食品添加物と遺伝子組み換え食品の不使用を、HPでも公開しており、江東区でも調達方針を設定し公開することが必要。子どもたちの未来を守る給食の有機食材導入を引き続き求めていく。

### 食の安全を守るためにゲノム編集食品に反対

「小学校や障がい児介護福祉施設にて、ゲノム編集トマト苗を受け取らないことを求める陳情」が出されています。

ゲノム編集技術を使った食品の生産・流通が認められるようになり、2021年にはサナテックシード(株)が開発しバイオニアエコサイエンス(株)が販売するゲノム編集トマト「シシリアンルーージュ ハイギャバ」が認可がされ、マダイ・トラフグも認可、今後流通が見込まれます。

ゲノム編集は特殊な酵素を用いて特定の場所を切断し、DNAに変化を起こす技術。別の遺伝子を組み込まないことから従来の品種改良と変わらないとして安全性審査は行わず、厚生労働省に届けを出すだけで流通でき、表示義務がありません。タネや苗にも食品同様表示義務がないため、家庭菜園などで知らない間にゲノム編集されたものを使用する可能性があり、食品流通のすべての過程で遺伝子操作の有無を判別することは難しくなっています。

ゲノム編集トマトは、2021年に家庭菜園用苗として市民モニター4,000人に無償配布されましたが、今度は22年に障がい児介護福祉施設、23年は小学校に無償配布することを計画しています。

江東ネットは、安全性に関する情報が十分に公開されることなく、経済効果だけを重視した商業化と、それを後押しする行政対応をすすめていることに危機感を持っています。ゲノム編集作物を栽培することで、周辺で交雑がすすみ、環境に影響を与えかねません。予防原則のもとに、安全性が確認されていない食品を、未来をつくる子どもたちに無償配布し食べさせることは許されないと考えます。

### 【予算要望にむけたアンケート】

●予算要望に取り上げて欲しい項目に○をつけて下さい。

- 福祉・医療（認知症、在宅医療、介護など）
- 教育（いじめ、不登校、教育費など）
- 環境（香害、プラスチックごみなど）
- 子育て支援（保育園、小児医療、児童虐待など）
- 人権・男女共同参画（性暴力、LGBT、ワークライフバランスなど）
- 若者支援（就労支援、相談、居場所など）
- その他（ ）

●具体的な要望があればお書きください。

ネットでのご回答はコチラ!!

[よろしければお書きください]

お名前： \_\_\_\_\_

ご住所： \_\_\_\_\_

電話FAX： \_\_\_\_\_

メールアドレス： \_\_\_\_\_

★切り取ってハガキに貼り投函ください